

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルな安全・防災の仕組みづくり

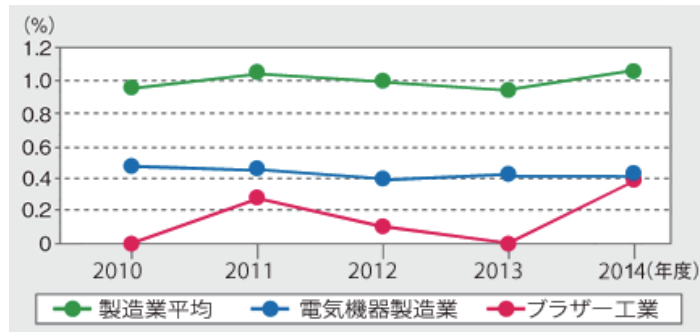
安全第一を基本方針としてマネジメントシステムを運用

ブラザーグループでは、『安全第一』は、全ての活動の基本である。全ての従業員が安全に安心して健康に働ける快適職場となるように努めると共に、安全文化を定着させる」という「基本方針」を、「安全防災方針」で定め、ブラザー工業の中央安全衛生防災委員会を中心に工場や職場における業務上の災害・疾病の防止や快適職場づくりに継続して取り組んでいます。



グローバル安全防災大会(ゼロ災でいこうヨシ!を全員で唱和)

労働災害度数率推移(ブラザー工業)



労働災害度数率とは、100万延労働時間当たりの労働災害による休業1日以上災害発生件数をもって労働災害の頻度を表すもので計算式は以下の通りとする。
電気機器、製造業の数値は、厚生労働省「労働災害動向調査」による。度数率 = (業務上労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数) × 100万

従業員とともに

労働安全衛生

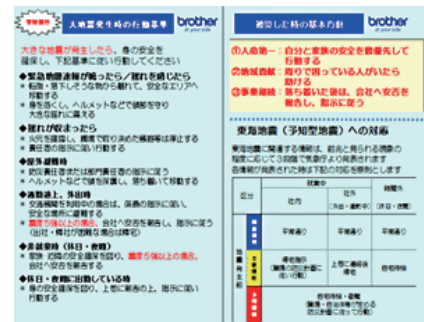
グローバルな安全・防災の仕組みづくり

安全衛生・防災活動の推進

中央安全衛生防災委員会事務局であるブラザー工業人事部安全防災グループが、各生産拠点の安全衛生・防災担当者とともに活動のPDCAを回し、自立化を推進しています。

安全衛生面では、安全衛生委員会の設置、安全衛生パトロール、災害発生時の再発防止対応、職場の潜在的リスクを計画的に低減する「リスクアセスメント活動」などを行っています。今後も従業員がより一層、安全で安心して働くことができる職場をめざして、継続的かつ積極的に安全衛生活動を推進していきます。防災面では、地震や火災発生時の初期対応をはじめとして、万が一災害が発生した場合に被害を最小限にとどめるための防災組織の整備や、防災訓練（避難訓練、初期消火訓練、AEDを使用した救命講習等）、法定に基づく防火設備点検などを各工場では実施しています。

2014年度には「被災した時の基本方針」を改訂し、「人命第一」、「事業継続」に加え、「地域貢献：周りで困っている人がいたら助ける」を新たに追加しました。その実践事例として所轄消防署協力の下、本社と近隣の保育園との合同避難訓練を実施し、その取り組みは他に例がないこともありマスコミにも取り上げられ好評価を受けました。今後も継続して実施することで基本方針の理解と実践につながっていくことを期待しています。



大地震発生時の行動基準カード



近隣保育園との合同避難訓練

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルに安全衛生・防災活動の自立化を推進

新生産拠点に注力して推進

ブラザー工業人事部安全防災グループでは、2006年より、海外生産拠点と連携し、安全衛生・防災活動を推進しています。2009年度末に、海外の主要生産拠点の独自の内部監査評価が国内とほぼ同じになったのを受け、2010年度からは、海外生産拠点で自立した活動が実施できるようにしています。2013年度からはブラザーインダストリーズフィリピン(以下、BIPH)とブラザー インダストリーズ サイゴン(以下、BISG)を新たな支援先に加えて、積極的に安全衛生・防災水準向上のための活動を展開しています。

具体的には、2013年から生産を開始したBIPH、BISGを数回訪問し、安全ルール集の策定や、労働災害報告の仕組みづくり、安全衛生・防災委員会の開催を、工場の事務局と今後の活動の進め方についてミーティングを持つなど、現地の従業員全員が安全に仕事できる職場環境づくりを進めています。また、両工場に対して中央安全防災委員長自ら訪問し、直接現場担当者と一緒に現場巡視も実施しました。ブラザーグループは、法令や文化などが異なる海外生産拠点でも、安全防災方針を伝えるとともに、安全衛生防災活動を現地で自主的に実施できるように努めています。

また、相互交流できる仕組みとして、国内外の生産拠点関係者を集めて開催している「グローバル安全防災大会」を2008年から継続して開催しています。災害発生の少ない工場、安全活動が優秀な工場、長年にわたっての功労者の表彰や各工場からの活動事例を共有するなど、意欲をもって安全衛生・防災活動に取り組んでもらう工夫をしています。



中央安全防災委員長による現場巡視

心身の健康維持・増進

グループ全体の健康維持・増進を目指して

従業員の健康管理は、活力ある組織づくりにおいて重要なテーマです。

ブラザーグループでは、各国、各地域の事業所において産業医を配置もしくは医療機関と提携して、従業員の心身の健康維持・増進に取り組んでいます。2014年度は中国の開発拠点である濱江兄弟信息技术(杭州)有限公司(以下、BSH)、製造拠点の兄弟工業(深圳)有限公司、兄弟高科技(深圳)有限公司を産業医・保健師が訪問し、出向者に対する健康面談や健康教育の実施、生活環境のヒアリング、工場近郊の医療施設の視察を行い医療情報の収集、提供を行いました。



BSHオフィスビル



BSH近郊の医療機関

メンタルヘルスの予防・早期発見・疾患後ケアの仕組みづくりに注力

ブラザー工業では、2011年度に「第2期ブラザーメンタルヘルス計画 5か年計画」を策定しました。予防対策を中心とした活動の継続とともに、今後さらにメンタル不調者を減らすためには、不調者が発生しにくい企業風土・職場環境を作っていく必要があります。そのためにこれまでの疾病管理の施策から人材育成やキャリア開発、仕事の達成感を得ることのできる職場づくりなど、人材戦略モデルに基づいた施策を策定し、継続して推進しています。また、2014年度より労働安全衛生法の改正に伴い、健康診断時に「ストレスチェック」を開始しました。「ストレスチェック」は従業員が自分自身のストレスに気づくための1次予防を目的として行われ、チェックの結果、高ストレスと評価された従業員の申し出により、産業医との面談を実施しています。

